

タイ工場・健康経営への取り組み

——キャノン・ハイテク・タイランド

社員の健康意識を高め健康増進を図ることは、会社への満足度向上にもつながる。

日外協 業務部

国際人事センター長 坂本冬海

外食と味の濃い料理や飲料

タイ人は青唐辛子が入った辛い料理が好みます。これは日々の暑さで失われる食欲を高める工夫だが、一方で甘いフルーツや飲み物も毎日欠かさない。実際アイスコーヒーには練乳や大量のシロップが入っていて、とっても甘い。皆最初は驚くが慣れてくると癖になる。

共稼ぎの家庭が多いタイでは外食が基本で、朝昼晩と街角の屋台や小さな食堂で食事をとる人も少なくない。味の濃い



タイの屋台

料理や飲料のせいで塩分、糖分を取りすぎてしまう傾向がある。

そんなタイでは近年成人病患者の増加が社会問題になっている。東南アジアで共通の課題だ。タイ人の死因は近年、虚血性心疾患や脳卒中など生活習慣病に起因するものが上位を占める。高血圧・高血糖・肥満の人口は年々増加して問題となっているほか、病院治療費も高騰している。これらが国民の健康意識の高まりにつながり、近年では健康志向の日本食がもてはやされたり、ジョギング、自転車など、運動がブームとなっている。

工場従業員の高齢化と成人病

2014年に私が2度目の赴任をしたキャノン・

ハイテク・タイランドはアユタヤ県とナコンラチャシマ県の工場でインクジェットプリンターなどの生産を行っている。操業開始から30年が経過し、40代以上の社員を中心に有病者が増加。医務室の利用者が増え、業務配慮が必要な社員や、心臓疾患、がんなどで亡くなる社員、糖尿病を抱える社員もいた。会社が社員に支払う医療費補助額も増加しており、健康改善への早急な対策が必要だった。

当時の工場の健康管理は、社外からの派遣看護師が医務室で処置対応するだけで、社員の健康状態の把握や対策はできていなかった。そこで2016年に健康診断で新たに成人病検査項目を加えたところ、コレステロールで5割、BMIで4割、LDL(悪玉コレステロール)で4割など、深刻な状態であることが分かった。取り急ぎ社員数も多い40代社員の中から成人病リスク社員を特定し対策を取るとともに、社員全体の健康意識を高め、健康増進を図ることにした。

目指したのは「キャノンで働く和健康になる」

当時2年ごとに実施していた社員満足度調査では、組織への高い一体感が見られたのに対して、「処遇」や「ワークライフバランス」の満足度が低かった。その改善策として賃金、福利厚生に加えて「健康づくり」を対策にした。

社員の健康を確保する活動として、これまでも労災、交通事故防止を行っていたが、それに加えて社員の「健康づくり」に取り組むことで、